Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

7月号—No.267
2017.6.25
（毎月1回25日発行）

アース・セレブレーション（新潟県佐渡島）

●目次／*contents*

特集「2017年夏のフェスティバル」

フェスティバルカレンダー……2

夏休み子ども企画カレンダー……5

地域通信……9

財団からのお知らせ……11

「地域創造フェスティバル2017」参加者募集／平成29年度「邦楽地域活性化事業」全体研修会参加者募集／平成29年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」募集開始／平成29年度「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」&「文化政策幹部セミナー」参加者募集／「市町村長特別セミナー」終了報告

平成30・31年度「公立美術館活性化事業」募集

平成30・31年度「市町村立美術館活性化事業」

平成30・31年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」（2か年）

平成30年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」（単年度）

平成30年度「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

平成30年度「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

今月のレポート……16

愛知県豊橋市　まちじゅう図書館キックオフイベント in 雨の日商店街

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

特集「2017年 夏のフェスティバル」

恒例の「夏のフェスティバル特集号」の季節となりました。話題の大型企画から定番イベントまで、一挙にご紹介します。

写真

左上：霧島国際音楽祭（鹿児島県霧島市）

右上：札幌国際芸術祭（小学生から18歳が参加するさっぽろコレクティブ・オーケストラ練習の様子。コンダクター：大友良英／演出協力：藤田貴大）

左下：メディキット県民文化センター「邦楽ワークショップ『Let's 和の音♪』」（宮崎県宮崎市）　©T.Saita

右下：和歌山県立近代美術館「なつやすみの美術館」（和歌山大学の学生によるギャラリーツアー）

2017年7月～9月 フェスティバルカレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。
㊞は会場、問は問い合わせ先です。
（地域創造助成事業）

音楽

●札幌市　7月8日～8月1日

パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）2017

1990年の創設以降、四半世紀にわたり世界中に延べ3,300人以上の音楽家を輩出してきた、世界の若手音楽家を育てる国際教育音楽祭。28回目となる今年は、29カ国・地域の演奏家97名がオーディションで選ばれ、1カ月にわたり指導を受けた成果を披露。オープニングコンサートに始まり、各種演奏会やGALAコンサートなど、25日間にわたって約40公演が実施される。

㊞札幌コンサートホールKitara、札幌芸術の森・野外ステージほか　問パシフィック・ミュージック・フェスティバル組織委員会
Tel. 011-242-2211

世界中から集まる若手音楽家

●青森県八戸市　7月29日

南郷サマージャズフェスティバル2017

今年で28回目を迎える北東北最大のジャズフェスティバル。今年は、世界的サックス奏者の渡辺貞夫をはじめとする国内外で活躍するアーティストから地元の小中学生のジャズバンドまでが出演し、多彩なライブが行われる。アマチュアバンドの出演団体数も過去最多となっている。

㊞カッコーの森エコーランド 野外ステージ　問南郷サマージャズフェスティバル実行委員会
Tel. 0178-82-2111

南郷サマージャズ 野外ステージ

●群馬県草津町　8月17日～30日

第38回草津夏期国際音楽アカデミー＆フェスティヴァル

「日常から離れて自分の中の音楽を見つめ直す」という理念の下、国内外から演奏家を迎え、講習会と演奏会により構成される音楽祭。今年は「モーツァルトの奇蹟～過ぎゆく時を超えて」をテーマに、1781～91年のウィーン時代にスポットを当て、2週間の開催期間中に幅広いプログラムで紹介する。

㊞草津音楽の森国際コンサートホールほか　問草津夏期国際音楽アカデミー事務局
Tel. 03-5790-5561

レッスンの様子

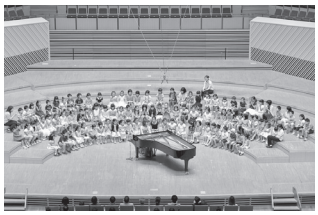
●川崎市　7月22日～8月11日

フェスタ サマーミューザ KAWASAKI 2017

毎年恒例の夏の音楽祭。東京交響楽団をはじめとする首都圏オーケストラの競演に、今年は新たに特別参加公演も加わり、さらにスケールアップ。プロオーケストラ12団体、学生オーケストラ2団体が集結する。子どもも一緒に楽しめる「こどもフェスタ2017夏」も開催される(8月3日、5日、8日)。

会ミューザ川崎シンフォニーホール、昭和音楽大学テアトロ・ジーリオ・ショウワ　問ミューザ川崎シンフォニーホール

Tel. 044-520-0100(代)



昨年のコンサート(イッツ・ア・ピアノワールド)　©青柳聡

●新潟県佐渡市　8月18日～20日

アース・セレブレーション2017

今年で開催30周年を迎える音楽フェスティバル。地域に根差した新たなコミュニティとして昨年から生まれ変わり、佐渡全島に広がるプログラムが展開される。鼓童とゲストによる野外ライブをはじめ、ECシアターやフリンジ、ワークショップ、佐渡体験プログラムなど、これまで以上に多様な催しが行われる。

会小木みなと公園ハーバーマーケット特設ステージほか佐渡市内各所　問アース・セレブレーション実行委員会

Tel. 0259-81-4100

●富山県南砺市　8月25日～27日

スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド2017

1991年より世界各国のミュージシャンたちによる音楽紹介を通じて異文化交流を目的に開催されてきた毎年恒例の音楽祭。今年は南砺市のほか、東京や名古屋、沖縄、高知でも開催。クロ・ペルガグ(カナダ)、アンドレ・メマーリ(ブラジル)ほか海外アーティストが多数出演。スキヤキワークショップの受講生によって結成されたトゥーマラッカら市民楽団5組も出演する。

会南砺市福野文化創造センター「ヘリオス」、南砺市園芸植物園ほか　問スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド実行委員会

Tel. 0763-22-1125

昨年の公演の様子

●山梨県富士河口湖町　8月11日～20日

富士山河口湖音楽祭2017

河口湖ステラシアターを中心に、富士山五合目などの会場で毎年夏期に開催される。16回目の開催となる今年は、アメリカのポップス界を代表する巨匠マット・カティンガブの指揮による「シエナ・ウインド・オーケストラ2017夏　スペシャルコンサート」をはじめ、吹奏楽高校生国内トップチームによるフレンドシップコンサートなど、さまざまなコンサートが行われる。

会河口湖ステラシアターほか

問富士山河口湖音楽祭実行委員会　Tel. 0555-72-5588

●長野県松本市　8月13日～9月10日

2017セイジ・オザワ 松本フェスティバル

世界中から優れた音楽家たちが結集し、サイトウ・キネン・オーケストラを中心にオペラやコンサートなど多彩な演目が披露される。小澤征爾音楽塾による教育プログラムの公演では、若い音楽家の育成のみならず、数多くの小中学生たちに生の音楽にふれてもらうことにも力を入れている。

会キッセイ文化ホール、まつもと市民芸術館園ほか　問セイジ・オザワ 松本フェスティバル実行委員会　Tel. 0263-39-0001

●長野県長野市　7月8日～17日

アートメントNAGANO2017

「日常に芸術を」をテーマに長野の夏を彩る音楽祭。久石譲がプロデュースし、クラシック音楽から映画音楽などエンタテインメント性を追求した公演など、多様なプログラムを揃える。長野市芸術館で「ナガノ・チェンバー・オーケストラ」による演奏会が行われるほか、善光寺と戸隠神社で奉納コンサートなどが行われる。

会長野市芸術館ほか

問長野市文化芸術振興財団

Tel. 026-219-3192

ナガノ・チェンバー・オーケストラ第3回定期演奏会の様子

●北九州市　7月3日～9日

響ホールフェスティヴァル2017

6月～7月にかけて開催される音楽事業「ヤハタミュージックプロジェクト～音楽でつながる人とまち～」の一環として、響ホール周辺施設や学校・企業等と連携し、ワークショップやミニコンサートを開催。また、メインの2日間は、オペレッタ『天国と地獄』(コンサート形式ダイジェスト版)や、出演者によるダンスワークショップなど、多くの催しが開催される。

会問北九州市立響ホール

Tel. 093-663-6661

昨年のワークショップの様子

●長崎県佐世保市　8月26日、27日

アルカス 九十九島音楽祭

2004年より開催し、毎年1,000人以上が参加するアルカス市民音楽祭を3年前にリニューアル。タイトルに沿って“海”“島”“風”“夏”をテーマとし、事前審査で選ばれた近郊の演奏家と11組のゲストが出演。地元を拠点に全国で活躍するサンディトリップや、波佐見児童合唱団らも地元を連想する曲目を演奏する。

会問アルカスSASEBO

Tel. 0956-42-1111

●鹿児島県霧島市　7月19日～8月6日

第38回霧島国際音楽祭2017

今年で38回目を迎える歴史ある音楽祭。約50公演を予定。マスタークラスは一般の方でも聴講可能。教授陣の中には、かつてのマスタークラス修了生も多い。最終日のファイナル・コンサートは、秋山和慶の指揮により、ソプラノのアンドレア・ロスト、プロとマスタークラス受講生によるオーケストラが出演する。

会霧島国際音楽ホール(みやまコンセール)、宝山ホールほか

問みやまコンセール

Tel. 0995-78-8000

topics

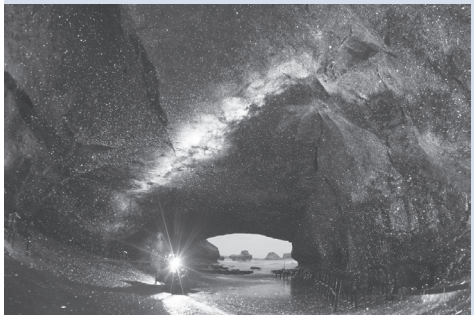
●“ロケットの島”のアートフェスがいよいよスタート！ 種子島宇宙芸術祭

数年にわたるプレイベントを経て、いよいよ今年開催されるのが種子島宇宙芸術祭です。CGアートコンテストやくろしお芸術祭など、各地域で市民が主導して継続してきたアートイベントも取り込み、種子島の1市2町が初めて一体となり開催します。日本で唯一のロケット発射場のある種子島で、「宇宙」というテーマを生命や芸術の起源へと奥深く解釈した作品を、空港や港などを中心に全島にわたり展示します。

展示作品は、宇宙を彷彿とさせる自然の中のインスタレーションや、種子島ならではのロケットの部品を素材にした立体作品など多種多様。展示やワークショップなど数あるプログラムの中でも、「宇宙のタネプロジェクト」は、アーティストや市民が芸術祭をきっかけにして自身のプロジェクトを実現させるため、クラウドファンディングをする新しい試みです。

「継続していくための、助成金だけに頼らない仕組みづくりへの第一歩。クラウドファンディングを通して、即物的ではないアートが、どんなリターンを人や町に与えられるかを考える試みにしたい。芸術祭が色々な自治体で行われている今だからこそ、確立しているやり方だけに頼らず、地域のための芸術祭の在り方を問うていきたい」と総合ディレクターを務めるライトアーティストの森脇裕之さん。種子島の土地性と、宇宙という普遍的なテーマを土台に、地域に根付いた芸術祭を目指します。

●鹿児島県西之表市・中種子町・南種子町　8月5日～11月12日
㊔種子島全域
㊐種子島宇宙芸術祭実行委員会（南種子町役場企画課内）
Tel. 0997-26-1111（内線271）　http://space-art-tanegashima.jp/



風穴洞「千座の岩屋」に投影された大平貴之のプラネタリウム

演劇・ダンス

●富山県南砺市　8月25日～9月10日

SCOT SUMMER SEASON 2017～利賀はますます上機嫌

鈴木忠志率いるSCOTによる国際演劇フェスティバル。今年は『サド侯爵夫人（第二幕）』『北国の春』、壮大な花火劇『世界の果てからこんにちは』のほか、日中露3カ国語版『シラノ・ド・ベルジュラック』や、ロシアを代表する演出家ヴァレリー・フォーキンによる『ハムレット』、アジアの若手演出家たちの『人形の家』も連続上演する。
㊔利賀芸術公園
㊐SCOT　Tel. 0763-68-2356

●福井県福井市　8月26日

ポジティブ！パッション！パフォーマンス！福井市文化会館パフォーマンスフェスティバル2017

舞台で演じるさまざまなパフォーマンスを公募形式で行うフェスティバル。ジャンル・年齢等制限なし、1組15分以内で披露し、観客の投票により「みんなのパフォーマー賞」（副賞あり）を決定する。舞台パフォーマンスに懸ける“情熱”が一堂に集う。
㊔福井市文化会館
㊐福井芸術・文化フォーラム
Tel. 0776-23-6905

美術

●横浜市　8月4日～11月5日

ヨコハマトリエンナーレ2017「島と星座とガラパゴス」

今年で6回目となる、現代アートの国際展。今年のテーマは「島と星座とガラパゴス」。国際的に活躍する約40組のアーティストの作品を複数点展示することで、星座のように展覧会を構成する。公開対話シリーズ「ヨコハマラウンド」等を通して、他ジャンルとの対話を試みる。
㊔横浜美術館、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜市開港記念会館地下　㊐横浜トリエンナーレ組織委員会
Tel. 03-5777-8600（ハローダイヤル）

●京都市　8月19日～10月15日

東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」

美術評論家・詩人の建畠晳がアーティスティックディレクターを務め、草間彌生、西京人をはじめとする25組の日中韓現代アーティストの作品を展示。主会場となる世界文化遺産・元離宮二条城で、城域の各所に展示された作品をループ状に巡り歩いて鑑賞する。「東アジア文化都市2017京都」のプログラムのひとつ。
㊔京都芸術センター、二条城
㊐東アジア文化都市2017京都現代美術部門運営委員会
Tel. 075-222-2733

西京人《第4章：アイラブ西京―西京国大統領の日常》（2009年）

●大分県由布市 8月23日～27日

第42回湯布院映画祭

映画館のない湯布院の町で行われる、現存する地域映画祭としては最も古くから続いている映画祭。今年で42回目を迎え、町内外から集まった10歳代から60歳代で構成される全員ボランティアによる実行委員会が企画・運営。前夜祭、特集企画や新作映画の上映、シンポジウムなど、映画のつくり手と日本映画のファンが出会う場ともなっている。
㊔JR九州由布院駅の駅前広場、由布市湯布院公民館
㊐湯布院映画祭大分事務局
Tel. 097-532-2426

総合

●札幌市　8月6日～10月1日

札幌国際芸術祭2017

2014年に続き、今回が2回目となる芸術祭。ゲストディレクターに大友良英を迎え、「芸術祭ってなんだ？」をテーマに開催する。美術や音楽、演劇といった既存のジャンルに収まらない多様な表現の紹介、市民参加型のプロジェクトや1日限りのパフォーマンスなど多彩なプログラムを市内約30カ所で行う。
㊔モエレ沼公園、札幌芸術の森、札幌市立大学、北海道大学総合博物館ほか
㊐札幌国際芸術祭実行委員会
Tel. 011-211-2314

●岩手県ほか　8月11日～19日

三陸国際芸術祭2017

東北の文化芸術による復興を目的に、2014年より開催。“営み”としての郷土芸能に着目し、そのプリミティブな表現を海外の郷土芸能とともに紹介、魅力の発信と芸能を通じた交流を行う。三陸とアジアの民俗芸能や夜神楽、コンテンポラリーダンス、体験型のアクティビティなどさまざまなプログラムを予定。

会大船渡市内ほか

問三陸国際芸術祭事務局

Tel. 0192-47-5123

●宮城県石巻市　7月22日～9月10日

Reborn-Art Festival 2017

東北で初めて開催される「アート」「音楽」「食」の総合祭として、51日間にわたり開催。実行委員長は音楽プロデューサーの小林武史。国内外のアーティストが地域の人とつくり上げたアート作品の展示や、多様なスタイルの音楽イベントの開催、国内の有名シェフによる食の提供など、アーティストも含め全員が一体となり、たくさんの出会いをきっかけに、地域復興や振興に繋がるさまざまな循環を生み出すことを目指す。

会石巻市(牡鹿半島、市内中心部)ほか　問Reborn-Art Festival実行委員会

info@reborn-art-fes.jp

●福島県喜多方市 8月4日～7日

喜多方発21世紀シアター

「0才の子どもが成人するまで続けたい」という想いで始まった企画。今年で18回目を迎える。演劇や音楽、落語や大道芸などさまざまなジャンルの公演が市内各所で開催され、4日間で約90公演が予定されている。準備から受付や後片付けまで、延べ約600人のボランティアが運営を担う。

会喜多方プラザ文化センターほか

問喜多方発21世紀シアター実行委員会　Tel. 0241-24-4611

●鳥取県湯梨浜町　8月27日

鳥取県青少年郷土芸能の祭典2017～未来へ繋ぐ郷土の絆～

平成15年度より開催され、地域の誇りと愛着に根ざした郷土芸能を、次代を担う若人が魅せる祭典。今年度は、郷土芸能の発掘・伝承を柱に、祝狂言や供養踊りに起源のある踊りのほかに、和太鼓や獅子舞など、青少年による鳥取県中部地区のさまざまな郷土芸能が集結する。

会ハワイアロハホール

問鳥取県文化振興財団

Tel. 0857-21-8700

●沖縄県那覇市ほか　7月24日～30日

りっかりっか*フェスタ(2017国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ)

毎年夏に沖縄で開催されるファミリーのための国際舞台芸術フェスティバル。今年で開催14回目を迎え、7日間にわたって8カ国の23作品・80ステージの公演が行われる。また今年はデンマークにフォーカスし、演劇・ダンス・人形劇など0歳から大人まで楽しめる選りすぐりの作品が上演される。ほかにもアジアの児童・青少年演劇アーティストのためのネットワーキングや世界のベイビーシアターを学ぶシンポジウム、海外の著名な演出家によるワークショップなど、さまざまなプログラムが行われる。

会那覇おもろまち周辺ほか

問国際児童青年演劇フェスティバル実行委員会

Tel. 098-887-1333

ホール・美術館
夏休み子ども企画カレンダー

ジャンル別に、開催地、日程、事業名、事業内容の順に掲載しています。会は会場、問は問い合わせ先です。(地域は地域創造助成事業)

音楽・演劇・ダンス

●岩手県盛岡市　8月1日～6日

こどもエンゲキ体験・はじめの一歩！夏組スペシャル！もりげき×先人記念館～えらい人、頭いい人、すごい人、おひとよしな人、ダメな人～

小学3年生以上を対象とした演劇講座。今年は盛岡市文化振興事業団設立20周年記念の連携事業として、盛岡劇場と盛岡市先人記念館のコラボ企画として開催。記念館で紹介している明治期以降に活躍した盛岡ゆかりの先人のエピソードを元に、グループでの芝居づくりを体験、最終日に発表公演を行う。

会盛岡劇場タウンホール、盛岡市先人記念館　問盛岡劇場・河南公民館　Tel. 019-622-2258

「こどもエンゲキ体験・はじめの一歩！～夏組～」ミニ発表会(2015年8月)

●宮城県塩竈市　7月29日、30日

からだを動かすワークショップ夏休み編「塩竈に耳をすます、そしてわたしたちは小さな旅をする」

身体を動かす楽しみや自分らしい表現を発見する小学生対象のワークショッププログラム。ファシリテーターをダンサー・磯島未来が務め、昨年度から通年の定期講座としてスタート。今回は夏休み編として、子どもたちが塩竈市内の商店街や歴史建造物などを巡って、地元の文化や歴史をリサーチしながら学び、受け取ったものを身体を使って表現する。

会問塩竈市杉村惇美術館

Tel. 022-362-2555

美術館大講堂(旧公民館を改装)でのワークショップ

●福島県白河市　8月5日

親子でオーケストラと遊ぼう！～仙フィルが白河にやってくる～

長年ファミリーコンサートなどに実績のある仙台フィルハーモニー管弦楽団(田中祐子指揮)を招き、クラシック音楽を身近に感じてもらうプログラム。本格的なコンサートのほか、仙フィルメンバーの指導による管・弦楽器体験、大ホールステージでの指揮者体験など、本物にふれることによってクラシック音楽の魅力を再発見してもらう。

会問白河文化交流館コミネス

Tel. 0248-23-5300

●さいたま市　7月29日

埼玉会館ファミリー・クラシック夏休みオーケストランド！

東京交響楽団と飯森範親、朝岡聡のナビゲートにより毎夏開催している体験型コンサート。今年は4月にリニューアルオープンした埼玉会館で2年ぶりに開

催される。持参した楽器や歌でオーケストラと共演したり、指揮にチャレンジしたり、クラシックにより親しめるよう工夫を凝らしている。恒例の“こどもソリスト”とオーケストラの共演では、さいたま市在住の中学3年生・西本裕矢君(第70回全日本学生音楽コンクール全国大会中学校の部第2位)が、ピアノ協奏曲の名作を披露する。
会 埼玉会館
問 埼玉県芸術文化振興財団
Tel. 048-858-5500

●千葉市　7月8日～8月6日
中学・高校生のための舞台スタッフ体験講座～みんなでツクル・アイドルライブ～
エンタテインメント業界の第一線で活躍しているクリエイターに舞台づくりに必要なスタッフワークを学ぶプログラム。AKB48の衣装制作やスタイリングなどを手がけているオサレカンパニーと協力し(特別講師は前AKB48総支配人の茅野しのぶ氏)、衣装・メイク・ヘアーの3コースに分かれて講座を受講。最終日にアイドルライブ制作スタッフの一員として舞台づくりを体験する。
会 千葉市文化センター
問 千葉市文化振興財団
Tel. 043-221-2411

●東京都豊島区　8月5日～16日
としまアート夏まつり2017 子どもに見せたい舞台vol.11 おどる童話(とうわ)『まほうのゆび』
毎夏豊島区内の各施設で展開している「としまアート夏まつり」のプログラムとして上演しているオリジナル舞台公演。今年はダンスカンパニーCHAiroiPLIN(チャイロイプリン)主宰でコンドルズのダンサーとしても活躍しているスズキ拓朗を振付・演出に迎え、ロアルド・ダールの童話「魔法のゆび」をモチーフにした、子どもも大人も楽しめるダンスエンタテインメント作品を創作。
会 問 あうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)
Tel. 03-5391-0751

●東京都武蔵野市　8月5日、6日
TOKYOこども演劇フェスティバル2017『ヒカリの王国』
演劇を通して、自分を表現することや人と関わることの楽しさを体験してもらうことを目的に昨年スタートした企画(東京都後援事業)。各地で児童演劇などのプログラムを手がける「こども演劇プロジェクトN.G.A.」代表の久米伸明が、すべてのキャストを小学生だけで演じることを想定して書き下ろしたオリジナル作品を昨年に続き上演。42役×4チーム、合計168人のキャストを全国から募集、約1カ月間の稽古を経て舞台に立つ。
会 武蔵野芸能劇場
問 TOKYOこども演劇フェスティバル製作委員会
Tel. 050-3636-1538

昨年の『ヒカリの王国』公演

●横浜市　7月22日～8月6日
KAATキッズ・プログラム2017『不思議の国のアリス』
年間を通して良質な児童向け公演を提供している「KAATキッズ・プログラム」。夏期は宮本亜門芸術監督演出によるミュージカル『ピノキオ～または白雪姫の悲劇～』など4本を上演。メインとも言える『不思議の国のアリス』はダンサー・振付家の森山開次の演出・振付による新作。ダンサーの辻本知彦や島地保武をはじめ、三浦直之(脚本)、松本淳一(音楽)、ひびのこづえ(衣裳)ら著名なクリエイターが集結し、大人も子どもも楽しめるファンタジックなダンス作品となっている。
会 問 KAAT神奈川芸術劇場
Tel. 045-633-6500

●石川県金沢市　7月28日～8月26日
親子謡・子供狂言教室
加賀藩前田家の庇護など古くから能楽が盛んな地で、子どもたちにふるさとの伝統芸能である能楽により親しむことができる機会を提供する夏期ワークショップ。宝生流の能楽師らを講師に招き、『高砂』『竹生島』などの謡を親子で学ぶ「親子謡教室」、『柿山伏』や小舞謡などで狂言の基礎を体験する「子供狂言教室」の2プログラムを実施。なお7月～8月の毎週土曜に開催している夏期公演「観能の夕べ」(高校生以下無料)でも上演前に能楽体験を実施している。
会 問 石川県立能楽堂
Tel. 076-264-2598

昨年の親子謡教室

●長野県松本市　7月30日
THE鍵盤フェスタ！～あなたはどのケンバンがお好き？～
ホールが所有する3種類の鍵盤楽器(パイプオルガン、チェンバロ、ピアノ)の魅力をわかりやすく紹介する恒例の夏休みプログラム。コンサートでは各楽器の仕組みや音色の違いをプロの演奏者がトークと名曲の演奏で紹介。同じ曲の弾き比べや珍しい3種類のアンサンブルも披露される。体験コーナーでは3つの楽器をすべて弾くことができ、パイプオルガン内部見学も実施される。
会 問 松本市音楽文化ホール(ザ・ハーモニーホール)
Tel. 0263-47-2004

パイプオルガン内部見学

●京都市　7月23日～8月11日
夏休み芸術体験教室2017
夏休み期間中、小中学生や高校生に、伝統音楽や伝統芸能などに実際にふれ、楽しみながら学んでもらうプログラム。邦楽(箏・尺八)、日本舞踊、能楽(仕舞、笛・小鼓・大鼓・太鼓)を4～5日間じっくりと稽古を重ね、各教室ごとに成果を発表する。能楽は大江能楽堂の本舞台で公演を行う。
会 京都芸術センター、大江能楽堂　問 京都市芸術文化協会
Tel. 075-213-1003

仕舞教室のお稽古

●堺市　8月19日
リズム☆パラダイス 2017
2014年から開催している0歳児から世界の打楽器が楽しめるフェスティバル。田島隆(タンバリン)、ギヨルギエウ三郷(パーカッション)、永田充(ダラブッ

カ)ら打楽器のエキスパートによるメインコンサートのほか、参加アーティストによる打楽器体験ワークショップや楽器づくり、ダンスワークショップなど、見て参加するバラエティに富んだ催しが行われる。
会 堺市立東文化会館
問 堺市文化振興財団
Tel. 072-228-0440

昨年のメインコンサート

●兵庫県尼崎市　8月5日、6日
ピッコロ劇団ファミリー劇場〈音楽劇〉『赤ずきんちゃんの森の狼たちのクリスマス』
大人も子どもも楽しめる作品を上演するシリーズ「ファミリー劇場」の夏休み公演。作品は別役実(前ピッコロ劇団代表)が1986年に劇団円「こどもステージ」のために書き下ろし、以後も30年以上にわたって各地で上演され続けている児童演劇の名作。今回は振付に森田守恒、音楽に谷川賢作を迎え、谷川自らが演奏する音楽とお芝居のコラボレーションもみどころのひとつ。昨年に続き、視覚に障がいのある方の鑑賞をサポートする音声ガイド付きで上演。
会問 兵庫県立尼崎青少年創造劇場ピッコロシアター
Tel. 06-6426-1940

●兵庫県西宮市　8月3日
子と親のはじめてのホール体験!プリンセスコンサート
初めてホールでの音楽を鑑賞する子どもと家族に向けて、楽しめること、感動できる機会を提供するとともに、ホールでの鑑賞マナーも知ってもらうため今年新たに立ち上げた事業「アートforキッズ」の第1弾。“プリンセス”にまつわる音楽とクラシックの名曲を織り交ぜ、コロン・えりか(ソプラノ)、長富彩(ピアノ)が出演する。本公演直前には西宮少年合唱団によるウェルカムコンサートも。
会 西宮市民会館アミティホール
問 西宮市文化振興財団
Tel. 0798-33-3111

●兵庫県豊岡市　7月17日、24日～28日
中・高生アートチャレンジ!演劇ワークショップ
中高生のコミュニケーション力、想像力、表現力を舞台芸術活動を通じて育成する事業「中・高生アートチャレンジ!」夏期恒例のワークショップ。前期(17日)は平田オリザ(豊岡市芸術文化参与)の下で演劇の基礎を学び、後期(24日～28日)では田上豊(田上パル主宰)を講師に迎え、短期集中ワークショップと発表公演を行う。照明や音響などスタッフワークも学べる。
会 豊岡市民プラザ
問 NPO法人コミュニティアートセンタープラッツ
Tel. 0796-24-3000

昨年の発表公演(演出:舘そらみ)

●北九州市　7月26日～30日
夏休み!子どもの劇場体験2017
演劇を体験する、またはプロの仕事にふれることで、子どもの頃から劇場や舞台芸術に親しんでもらうことを目的としたワークショップ。「演劇体験」コースでは、地域の演劇人と一緒に演劇を体験し自由な発想と感性を育む。「職場体験」コースでは、劇場裏方・表方の仕事を学び、実際の公演中にフロント係にも挑戦する。ほかにも「子供のためのシェイクスピア『リア王』」の鑑賞など、さまざまプログラムで劇場の素晴らしさを伝える。
会問 北九州芸術劇場
Tel. 093-562-2655

昨年の「演劇体験」の様子

●宮崎県宮崎市　7月30日、8月5日、12日、19日、20日
邦楽ワークショップ「Let's 和の音♪」
小中学生を対象とした2度目の邦楽普及事業。プロの演奏家から箏のお稽古を受けられる「はじめてのおけいこ」、箏・三味線・笙・小鼓・笛の中から1つの楽器を選んでじっくり体験できる「かじってみよう!」、5つの楽器を自由に触ることができる「ふれてみよう!」の3コースを実施。コンサートでは、講師とはじめてのおけいこ受講生が、このために創られた邦楽作品を演奏する。
会問 メディキット県民文化センター(宮崎県立芸術劇場)
Tel. 0985-28-3208

美術

●さいたま市　7月15日～8月31日
くらべる古美術―見て考える美術のひみつ―
県指定文化財「太平記絵巻」や、「源平合戦図屏風」などの収蔵品を中心に、美術品を色や形、モチーフなどのテーマごとに比較しながら古美術のやさしい楽しみ方を紹介する。併せて県立久喜図書館や同館で講座を実施したり自由課題のヒントになるようなワークシートも用意する。
会問 埼玉県立歴史と民俗の博物館　Tel. 048-645-8171

●横浜市　7月28日～8月6日
あざみ野こどもぎゃらりぃ 2017
さまざまなかたちでアーティストや表現に出会う子どものための展覧会。12回目の今年はアーティストユニット「パンタグラフ」の考案した仕組みを使って7組のアニメーション・絵本作家がつくった《アニメーション・ターンテーブル》など、動かすと絵が動く作品を数多く展示するほか、ワークショップで山内小学校5年生がたち“大切なもの”を撮影した写真が、自分の言葉を添えて展示される。また最終日には現在瀬戸内海の豊島を拠点に活躍中の夫婦ユニット「ウサギニンゲン」による映像と音楽のライブショーが行われる。
会問 横浜市民ギャラリーあざみ野
Tel. 045-910-5656

●和歌山県和歌山市　7月8日～9月18日
なつやすみの美術館7「すききらい、すき?きらい?」
夏休み中の子どもたちに積極的に足を運んでもらう、また大人と一緒に美術館を楽しんでもらうことを目的に開催している展覧会。7回目の今年は、テーマ「すききらい」について考えるきっかけとなるような時代もジャンルもさまざまな作品を幾つかの章に分けて展示。教職員を目指す和歌山大学の学生(たまごせんせい)が鑑賞をサポートするほか、ワークショップや「こどもギャラリートーク」など、より美術に親しんでもらえる事業を展開する。
会問 和歌山県立近代美術館
Tel. 073-436-8690

topics

●筑波大学と連携した美術普及プログラムが10周年 夏休みアート・デイキャンプ&アートたんけん隊2017

このプロジェクトは2008年、文化庁の「文化芸術による創造のまち」支援事業に採択されたことを契機として始まり、つくば市・つくば文化振興財団の芸術を通したまちづくりと筑波大学の地域貢献・社会貢献の想いが一体となった事業です。名称や内容、実施体制の変化を繰り返しながら、今年で10回目の開催を迎えます。

プログラムは、筑波大学の大石膏室を主会場とした「写生会」と学内のアート作品を鑑賞する「アートたんけん隊」、写生会の作品を展示する「作品展」の3企画から成り、参加者はつくば市内を主とした近隣市町村の小・中・高校生。昨年度の写生会では2日間で延べ400人近くが参加し、日本有数の大きな石膏像のある部屋で、ダビデ像やニケ像、静物のモチーフを思い思いの画材を使って自由に楽しく描きました。また、筑波大学芸術系の先生や学生たちから個別にワンポイントアドバイスがもらえるほか、写生会の後に開催されるアートたんけん隊では、大学院生が探検（観賞）ツールを使いながら参加者をナビゲートします。ほかにも茨城県つくば美術館を会場とする作品展では、付き添いの保護者や未就学児の作品も含め、300数十点の作品を展示しています。

「この写生会では上手だとか下手だとかは関係ありません。モチーフを良く見て一生懸命描いてほしい。描くことでも観ることでもいいので、絵や美術が好きな人になってほしいですね」と代表者の太田圭筑波大教授。アートに隠された楽しさや驚き、面白さなどが学べる2日間です。

●茨城県つくば市　7月22日、23日
㊔筑波大学 体育・芸術エリア5C棟
㊐つくば文化振興財団　Tel. 029-856-7007
http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/14271/14654/021144.html

巨大な大きな石膏像が並ぶ大石膏室での「写生会」（昨年の様子）

●島根県浜田市　7月15日～9月24日

体験型現代美術　アートパレード展

現在活躍中の現代美術作家がキーワードをもとに制作した参加体験型の作品を紹介する夏期特別展。4名の作家（高橋綾、船原七紗、浅野耕平、関野宏子）が「アートパレード」をテーマに創作したメディアアートやインスタレーションなど、表現手法も形状も多様な作品により、展示室を進むと作品たちが大行進しているかのような空間を創出。決められた手法で体験するのではなく、子どもたちの想像を促し、体験の仕方を発見してもらう。
㊔㊐浜田市世界こども美術館
Tel. 0855-23-8451

「アートパレード展」事業の活動風景

総合

●東京都小金井市　7月22日、23日

小金井阿波おどり応援イベント「えんにち」

小金井市で毎年開催される「小金井阿波おどり」の開催日に併せて実施している企画。地元の大学生（東京学芸大学、東京農工大学）や文化NPO団体の協力で、ワークショップや昔の遊び体験、落語鑑賞会など子ども向けの無料イベントを開催。
㊔㊐小金井 宮地楽器ホール
Tel. 042-380-8077

●東京都小平市　8月27日

2017ルネこだいら夏休みフェスタ

夏休みの1日、ホール全館が子どもがアートに身近にふれるプログラムで溢れる事業。小平青少年吹奏楽団・小平こども劇場・会館の三者による実行委員会が年間を通じて準備・企画等に関わる。フィナーレを飾る同吹奏楽団と小平第六中学校箏曲部によるコンサートをはじめ、山本東次郎家による狂言鑑賞会、人形劇、大道芸、地元大学生（武蔵野美術大学、白梅学園大学）の協力によるワークショップなど、さまざまなジャンルの催しが館内各所で行われる。
㊔㊐ルネこだいら（小平市民文化会館）　Tel. 042-345-5111

昨年の夏休みフェスタ（「楽器に触れよう、音を出そう！」）

●神奈川県逗子市　8月6日

ホールオープンデー

ホールのことをよく知ってもらうイベントとして、好評を博し継続しているホール開放イベント。0才から楽しめる若手プロ吹奏楽団ブリッツフィルハーモニックウィンズのコンサート、女性のみにより伝承されるひとみ座乙女文楽公演をはじめ、ワークショップや手作り絵本ミニ展覧会など、親子で楽しめるバラエティに富んだプログラムが館内各所で行われる。
㊔㊐逗子文化プラザホール
Tel. 046-870-6622

●静岡市ほか7市町　7月22日～10月28日（特別講座：7月22日、29日、8月19日）

ふじのくに子ども芸術大学2017

2011年にスタートした県内の小中学生を対象とした体験・創造講座。子どもたちが第一線で活躍する芸術家との交流を通じて、優れた文化・芸術に出合い、身近に親しむ機会を提供する。学長は作曲家の三枝成彰。日比野克彦や横山幸雄、向谷実、わたせせいぞう、ひびのこづえ、三ツ橋敬子ら各ジャンルのアーティストやクリエイターたちが講師を務める特別講座のほか、期間中は県内各地で文化団体等の企画による講座が開講される。
㊔グランシップ、富士市交流プラザ、クリート浜松ほか　㊐ふじのくに子ども芸術大学実行委員会（静岡県文化政策課内）
Tel. 054-221-3340

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。☜マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　宇野・高澤

●2017年9月号情報締切
8月1日(火)

●2017年9月号掲載対象情報
2017年9月～11月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●北海道斜里町 ☜

斜里町公民館ゆめホール知床
〒099-4113　斜里郡斜里町本町4
Tel. 0152-22-2222　結城みどり
http://www.town.shari.hokkaido.jp/

アンサンブルグループ奏楽コンサート～音楽と歌のシンフォニー～

アウトリーチでプロの音楽家の指導を受けた斜里ジュニアバンドの児童と吹奏楽部所属の中高生、斜里混声合唱団、グリーンコーラスなどのメンバーがその成果を発表する。合同演奏も予定しており、音楽と歌の融合により、地域における団体間の連携を深めることを目指す。
[日程]7月16日
[会場]斜里町公民館ゆめホール知床

昨年のアンサンブルグループ奏楽と吹奏楽部との合奏

●青森県八戸市

八戸ブックセンター
〒031-0033　八戸市大字六日町16-2 Garden Terrace1F
Tel. 0178-20-8368　音喜多信嗣
https://8book.jp/bookcenter

ギャラリー展示　飯田竜太展「のどの文字、間の無光」

「本のまち八戸」の拠点として昨年12月にオープンした八戸ブックセンターのギャラリーで開催される、八戸ゆかりの彫刻家・飯田竜太の展覧会。展示される彫刻作品の素材は本。作家自身が読み終わった本や捨てられる運命にあった本を彫ることで、本という物質とそれがもつ意味に焦点を当てる。
[日程]4月15日～6月30日
[会場]八戸ブックセンター

「のどの文字、間の無光」展示風景

●岩手県久慈市 ☜

久慈市文化会館
〒028-0051　久慈市川崎町17-1
Tel. 0194-52-2700　中居弘美
http://ahall.city.kuji.iwate.jp/

市民参加型オペラ『椿姫』全幕

プロの演奏家・声楽家、市内外から参加を募った合唱団、バレエ団による本格的なオペラを公演。ソリストは近隣地域出身者、バンド演奏は地元の高校生が担うなど、地域一体となって取り組む。公演前日には、オペラの見所などを学べる特別レクチャーと公開ゲネプロを予定。
[日程]8月6日
[会場]久慈市文化会館(アンバーホール)

関東

●栃木県宇都宮市

栃木県立美術館
〒320-0043　宇都宮市桜4-2-7
Tel. 028-621-3566　山本和弘
http://www.art.pref.tochigi.lg.jp/

2D(にじげん)プリンターズ

“複製”をキーワードに、その芸術との関わりに焦点を当てた展覧会。写真・版画をはじめ、複製と手仕事の境界を横断するような絵画やドローイング、彫刻なども含めた約200点を展示する。昨今注目を浴びる3Dプリンターを思わせる名称の本展では、作品を通して、芸術における自立的価値や有用性についての問いを投げかける。
[日程]7月15日～9月18日
[会場]栃木県立美術館

●栃木県佐野市

佐野市立吉澤記念美術館
〒327-0501　佐野市葛生東1-14-30
Tel. 0283-86-2008　末武・大平
http://www.city.sano.lg.jp/museum/

石灰と美術

佐野市は全国有数の石灰石産出地で、2000年以降、フレスコ壁画が市内各地に制作されてきた。そのフレスコ画をはじめ、漆喰・日本画・彫刻・陶芸など、美術工芸ジャンルの意外なところに使われる石灰の存在を紹介。フレスコ画体験教室や市内各地に制作されている壁画の見学ツアーなど地域の特徴を活かしたイベントが予定されており、石灰と美術の関係が体感できる。
[日程]7月22日～10月15日
[会場]佐野市立吉澤記念美術館

市内の壁画制作風景(戸倉英雄・福島恒久)

●群馬県館林市

群馬県立館林美術館
〒374-0076　館林市日向町2003
Tel. 0276-72-8188　熊谷ゆう子
http://www.gmat.pref.gunma.jp/

カミナリとアート　光／電気／神さま

群馬の夏の暮らしに深く結びつき、上州名物ともなっている雷を題材とした作品を集めた展覧会。現象としての雷を描写した写真・絵画から始まり、雷神像をはじめとする雷を擬人化した表現、そして雷を連想させる音や光、電気を使った現代アー

トまで、幅広く紹介する。
[日程]7月15日～9月3日
[会場]群馬県立館林美術館

●さいたま市
彩の国さいたま芸術劇場
〒338-8506　さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5500　田中・久保田
http://www.saf.or.jp/arthall/

藤田貴大ワークショップ公演 vol.2『ハロースクール、バイバイ』
彩の国さいたま芸術劇場とマームとジプシーの藤田貴大が、出演者を公募して作品づくりに取り組むワークショップ公演第2弾。昨年の第1弾に続く今回は、埼玉県内在住・在学の中学生以上20歳以下の12人の出演者と共に、3カ月間稽古を重ねて『ハロースクール、バイバイ』の創作に挑む。
[日程]7月27日～30日
[会場]彩の国さいたま芸術劇場

●川崎市
ミューザ川崎シンフォニーホール
〒212-8557　川崎市幸区大宮町1310
Tel. 044-520-0200　山田里子
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/

ミューザの日2017 ウェルカム・コンサート「オーケストラ入門!」
7月1日のミューザ開館記念日を「ミューザの日」として「音楽のまち・かわさき」を1日中楽しめるイベントを開催。ウェルカム・コンサート「オーケストラ入門!」は、東京交響楽団の演奏とホールアドバイザー・秋山和慶の指揮、朝岡聡のナビゲートによる、初めてオーケストラを聴く人のために組まれたプログラムで、楽器の紹介やパイプオルガン演奏、指揮者体験コーナーを盛り込んだ内容となっている。
[日程]7月1日
[会場]ミューザ川崎シンフォニーホール

昨年の「オーケストラ入門!」　©青柳聡

北陸・中部

●静岡県掛川市
掛川市生涯学習振興公社
〒437-1421　掛川市大坂7373
Tel. 0537-72-1234　水野亮
http://www.k-kousya.or.jp/sione/publics/index/6/

生涯ダ!ダ!ダ!ダンス
2012年、世界最大の芸術祭(演劇祭)エディンバラ・フェスティバル・フリンジで最高峰の賞(ヘラルド・エンジェル賞)を受賞した地元出身ダンスパフォーマンス集団「LaN-T003」を招き、メンバー41人で、自己を表現するダンスパフォーマンスと、身振りやセリフで感情を表現する演劇とを融合させつくり上げた完全オリジナルの舞台。市民ダンス劇団「劇団わたげ」の初公演となる。
[日程]7月2日
[会場]掛川市文化会館シオーネ

練習の様子

近畿

●兵庫県西脇市
西脇市立音楽ホール「アピカホール」
〒677-0015　西脇市西脇991
Tel. 0795-23-9000　宇高美紀
http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/

第137回しばざくらコンサート「和楽器Party!!」
「和楽器オーケストラあいおい」によるNHK大河ドラマのテーマ曲や日本舞踊との演目が披露される。また、箏演奏家の指導により箏の練習を積んだ10人の市民とアピカホールの児童合唱団、混声合唱団が和楽器オーケストラと共に“日本の四季”を共演する。公演前には和楽器に触れる体験ワークショップも開催される。
[日程]7月28日
[会場]西脇市立音楽ホール「アピカホール」

中国・四国

●広島県廿日市市
はつかいち平和の祭典実行委員会(廿日市市生涯学習課内)
〒738-8501　廿日市市下平良1-11-1
Tel. 0829-30-9203　上田美穂
https://www.city.hatsukaichi.hiroshima.jp/soshiki/58/20121.html

はつかいち平和コンサート2017
毎年7月、「平和・共生」の趣旨で開催しているコンサート。公募による約150人の市民合唱団「はつかいち平和合唱団2017」、広島で活躍している演奏家によるプロの弦楽アンサンブル「ピース・メモリアル・アンサンブル」、プロアンサンブルと公募による約40人のアマチュア・ジュニア団員による「プロとアマチュア、ジュニアの混成オーケストラ(はつかいち・ピース・メモリアル・オーケストラ)」が出演する。
[日程]7月30日
[会場]はつかいち文化ホールさくらぴあ

●香川県丸亀市
丸亀市猪熊弦一郎現代美術館(ミモカ美術振興財団)
〒763-0022　丸亀市浜町80-1
Tel. 0877-24-7755　国枝かつら
http://www.mimoca.org

志賀理江子 ブラインドデート
宮城県を拠点に活動する写真家・志賀理江子の5年ぶりとなる大規模な個展。2009年にバンコクの恋人たちを撮影したシリーズ「ブラインドデート」に始まり、写真プリントのほか、約20台のスライドプロジェクターを使ったインスタレーションを構成。また、志賀の制作スタジオが所蔵する世界中から集められた書籍の配架や、いがらしみきお、飴屋法水らゲストと志賀のリレートークなども行われる。
[日程]6月10日～9月3日
[会場]丸亀市猪熊弦一郎現代美術館

●高知県高知市
高知県立美術館
〒781-8123　高知市高須353-2
Tel. 088-866-8000　山浦日紗子
http://kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/

ペーパームーン・パペットシアター 新作人形劇『和紙を透かして』
インドネシアの現代人形劇カンパニー、ペーパームーン・パペット・シアターのメンバー8名が高知に滞在し、地元のアーティストと共に創作した新作を上演する。高知ならではの土佐和紙を物語のモチーフに据え、和紙による手づくりの人形やダンス、生演奏を織り交ぜた、幻想的なパフォーマンスとなる。
[日程]7月27日、28日
[会場]高知県立美術館

過去作品‘Men of The Sea’
by Papermoon Puppet Theatre

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2017」参加者募集

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介するとともに、公共ホールや自治体の皆さんが事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的として、8月1日から3日までの3日間、東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋1-8-1)を会場に「地域創造フェスティバル2017」を開催します。全国の皆様のご参加をお待ちしております。

※事前申し込み制です。詳細は左記要領をご覧ください。 **募集締切:7月24日(月)必着**

地域創造フェスティバルのみどころ

◎おんかつ支援プレゼンテーション

おんかつ支援の登録アーティストたちが、音楽との新しい出会いを地域へ届けるため工夫を凝らした演奏とトークを、1組20分の持ち時間の中で披露します。

◎公共ホール現代ダンス活性化事業(ダン活)

アーティストプレゼンテーションとセミナーを開催します。プレゼンテーションでは、平成30年度ダン活登録アーティストによるダンスパフォーマンスや、ワークショップのデモンストレーションを実施します。

セミナーでは、ダン活事業を経験したホール担当者から、その取り組みの事例をご紹介します。視覚障がい者を対象にしたワークショップの取り組みなど、コンテンポラリーダンスのもつ力がどのように地域で生かされ、ダンスと地域がどのように繋がることができるのか、ダンスの魅力を探ります。

◎共通シンポジウム

平成28年度に実施された「高齢社会における公立文化施設の取り組みについて」の成果を報告します。参考事例の収集・分析および現地調査やグループインタビューを通じて見えてきた課題と傾向、高齢社会に公立文化施設は今後どのように向き合っていくのか、調査報告を踏まえて議論していただきます。

◎音楽アウトリーチセミナー

公共ホール音楽事業担当者向けのセミナーを開催します。「入門コース」「発展コース」を設け、音楽による地域プログラムを通じて、「公共ホールの役割」と「これからの公共ホールスタッフに求められる基礎的スキル」について考えます。

◎音楽がヒラク未来 in 地域創造フェスティバル

音楽が社会に資する、より身近な芸術としてその役割を果たすため、公共ホールやアーティストがどのような意思をもち、何をすべきかを考えます。

●「地域創造フェスティバル2017」
[日程] 8月1日(火)～3日(木)
[会場] 東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋1-8-1)
[申し込み方法] 下記URLから参加申込書(Excelファイル)をダウンロードし、必要事項をご記入の上、件名を「地域創造フェスティバル参加希望」とし、メールにてお申し込みください。
[URL] http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/
[メールアドレス] festival@jafra.or.jp
[問い合わせ] 芸術環境部
高澤・工藤
Tel. 03-5573-4093

「地域創造フェスティバル2017」プログラム

＊詳しいプログラム内容やタイムスケジュールは同封チラシをご覧ください

8月1日(火)	8月2日(水)	8月3日(木)
●共通シンポジウム [調査報告]大澤寅雄 [モデレーター]吉本光宏 [パネリスト]坂倉杏介、白石光隆、三ツ木紀英、嶺浩子	●ダン活セミナー「ダン活のススメ」 [講師]井上恵理子(八尾市文化会館プリズムホール)、福間一(島根県民会館) [コーディネーター]佐東範一、志賀玲子、平岡久美	●助成要綱説明会 ●リージョナルシアター事業説明会
●ダン活プレゼンテーション セレノグラフィカ、北尾亘、中村蓉、田村一行、長井江里奈、鈴木ユキオ、東野祥子、田畑真希	●音楽アウトリーチセミナー 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子、三浦幸恵	●音楽アウトリーチセミナー 小澤櫻作、丹羽徹、花田和加子、山本若子
●音楽アウトリーチセミナー 北村成美	●公共ホールを取り巻く近年の動向—芸術創出の『場』を考える—　草加叔也	●音楽がヒラク未来 in 地域創造フェスティバル 仲道郁代、吉本光宏、津村卓、小澤櫻作
●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ]白石光隆、中川賢一、佐々木京子、新居由佳梨 [弦楽器]北島佳奈、長谷部一郎、奥田なな子 [管楽器]岩間丈正、岩佐和弘、森岡有裕子、藤田旬、小川正毅、加藤直明 [声楽]渡邊史、村上敏明、羽山晃生、吉川健一 [打楽器・その他]浜まゆみ、大熊理津子、前田啓太、松尾俊介 [アンサンブル]Dual KOTO×KOTO、Quartet SPIRITUS、Quatuor B	●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ]久保田葉子、今野尚美、新崎誠実、泊真美子、岩崎洵奈 [弦楽器]礒絵里子、早稲田桜子、瀧村依里、松本蘭、加藤文枝 [管楽器]吉岡次郎、大石将紀、高見信行、喜名雅 [声楽]大森智子、乗松恵美、廣田美穂、菅家奈津子、黒田晋也、ヴィタリ・ユシュマノフ [打楽器・その他]野尻小矢佳、塚越慎子、福島青衣子 [アンサンブル]デュエットゥ かなえ&ゆかり、ピアノデュオドゥオール、Buzz Five、BLACK BOTTOM BRASS BAND	●おんかつ支援プレゼンテーション [弦楽器]高橋和歌、海野幹雄 [管楽器]田村真寛 [その他]益田正洋、江崎浩司、片岡リサ [アンサンブル]Duo Yamaguchi、Quintet H

財団からのお知らせ

●平成29年度「邦楽地域活性化事業」全体研修会参加者募集

平成29年度邦楽地域活性化事業では、熊本県熊本市の熊本県立劇場を会場に、邦楽のアウトリーチやワークショップの可能性についてのレクチャーや、前回参加演奏家によるアウトリーチデモンストレーションなどを行う研修会を、8月9日(水)に開催します。

この研修会は、事業実施者、アウトリーチ先の学校関係者などを対象に、本事業の趣旨や流れを理解・共有していただくために実施していますが、本年度事業関係者のみならず、邦楽分野のアウトリーチ・ワークショップ事業などに関心のある公共ホールや、文化行政ご担当者の参加を募集します。邦楽事業に関心のある方は、この機会に是非ご参加ください。事前登録制となりますので、参加を希望される方は、(公財)熊本県立劇場宛にお申し込みください。

●平成29年度邦楽地域活性化事業
全体研修会
[日時]2017年8月9日(水)
13:30～17:00
[会場]熊本県立劇場
熊本県熊本市中央区大江2-7-1
[内容]邦楽分野アウトリーチについてのレクチャー、演奏家によるアウトリーチデモンストレーション・質疑応答、本事業コーディネーターによる座談会など(予定)
[参加申し込み方法]
①件名:邦楽研修会
②所属団体(施設)名
③氏名
④電話番号
をご記入の上、メールでお申し込みください。
宛先:bosyu@kengeki.or.jp
※応募多数となった場合は、参加人数等を調整させていただく場合もあります。
応募締切:7月26日(水)必着
[担当](公財)熊本県立劇場
事業グループ　貴田
Tel. 096-363-2235

●邦楽地域活性化事業に関する問い合わせ
芸術環境部　阿比留
Tel. 03-5573-4069

●地域創造大賞(総務大臣賞)に関する問い合わせ
地域創造大賞事務局　岩藤・岡村
Tel. 03-5573-4164
taishou@jafra.or.jp

◎邦楽地域活性化事業

都道府県・政令指定都市のホールが主体となって、市町村ホールとの連携により学校アウトリーチやワークショップ、コンサート等を実施し、邦楽分野のアウトリーチ手法や事業展開のノウハウの蓄積を目指すもので、今年度は(公財)熊本県立劇場が、熊本県内の3市(山鹿市・荒尾市・天草市)で実施します。

平成28年度邦楽地域活性化事業―島根県江津市・小学校でのアウトリーチ(左から:日原暢子、渡部祐子、川村葵山)

平成29年度「地域創造大賞(総務大臣賞)」の募集開始

地域創造大賞(総務大臣賞)は、地域における創造的で文化的な表現活動のための環境づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰し、全国に広く周知することにより、公立文化施設の活動のさらなる活性化を図り、美しく心豊かなふるさとづくりの推進に寄与することを目的としています。

平成16年度の制度創設以来、これまでに全国で103施設が受賞しています。受賞施設の中には、平成27年度に受賞した熊本県小国町の「坂本善三美術館」のように古民家を移築して建てられた特徴のある施設や、平成28年度に受賞した青森県八戸市の「八戸ポータルミュージアム(はっち)」のように観光・交流・創造の拠点施設として開設され、中心市街地活性化の役割を担っている施設もあります。また、当初別の目的で建てられた施設(例:小学校の校舎など)を転用して文化施設としているケースでも設置条例の制定から概ね5年を経過していれば対象になります。

受賞施設は例年、地域創造レターで詳しくご紹介しており、新聞などのマスコミでも大きく報道されています。

実施要領と応募書は、当財団のウェブサイト(http://www.jafra.or.jp/)からダウンロードが可能です。

応募に際し、施設の規模や事業内容などで不明な点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。さまざまな公立文化施設の皆様からのご応募をお待ちしています。

市区町村からのご応募については、都道府県に取りまとめをお願いしています。各都道府県のとりまとめ先は、当財団のウェブサイトに掲載しています。

募集締切:7月24日(月)

◎表彰の主なポイント

- 地方公共団体等が、文化・芸術による地域振興やふるさとづくりという地域を豊かにするための行政の目的に沿った芸術文化振興ビジョンや公立文化施設の理念、使命をもち、それを達成するための施設運営がなされていること
- 先進性、テーマ性を有する自主企画作品の制作、公演や自主企画展覧会の開催等創造的な活動に取り組むとともに、内外の優れた作品の鑑賞機会の提供に意欲的に取り組んでいること
- 地域における文化・芸術活動を担う人材の育成に意欲的に取り組んでいること
- 地域における創造的な文化・芸術環境づくりに持続的な成果が上がっていること

●平成29年度「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」&「文化政策幹部セミナー」参加者募集

東京・赤坂の地域創造事務局を会場に「ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース」(10月16日(月)～18日(水))と「文化政策幹部セミナー」(10月16日(月)、17日(火))を同時開催します。今年度は「2020年後の協働の芸術文化活動」を両コースのテーマとします。

2020年のオリンピック・パラリンピック東京大会に向けて文化プログラムへの関心が高まっています。「文化プログラムの実施に向けた文化庁の基本構想」(平成27年7月)では、地方公共団体をはじめ文化団体や公共ホール、アーティスト、NPO等が主体的に文化に参画するための枠組みづくりの契機として、文化プログラムを位置づけています。またいくつかの地方公共団体では、地域の文化活動を促進する目的でアーツカウンシルを設立する動きが活発化しています。今回はこのような長期的視野を備えた枠組みづくりや制度設計を踏まえた考察をしていく一方で、私たちの生活の中にあるさまざまな創造活動や文化的な営みにも目を向けていきます。多彩な講師陣と共に、自治体としての視点、公共ホールとしての視点を行き来しながら、多様な人々の文化への参画のあり方を複眼的に構想します。

募集締切：8月6日(日)必着

◎ステージラボ／公立ホール・劇場マネージャーコース

[コーディネーター]藤野一夫(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)
[内容]ホール等の運営に活かすことのできる地域文化プログラムや地域との関わり方などについてのレクチャーやグループワークを実施。

◎文化政策幹部セミナー

[コーディネーター]伊藤裕夫(文化政策研究者)
[内容]文化政策的な視点から、芸術文化が地域にもたらす創造的な成果等を考察するレクチャーやグループワークを実施。

●「市町村長特別セミナー」終了報告

地域創造では、全国の市町村長を対象に、文化・芸術による地域づくりへの理解を深めていただくための「市町村長特別セミナー」を年2回実施しています。今年度の2回目は滋賀県大津市にある全国市町村国際文化研修所との共催により、文化・芸術に関する講演と音楽アウトリーチを身近に経験していただくミニコンサートを実施しました。

今回は、4月24日に千葉市の市町村アカデミーで開催された市町村長特別セミナーに引き続き、地域創造石川善朗常務理事の講演で「地域の文化振興～地域創造の施策を中心に～」と題し、文化・芸術の役割と人材育成、行政や公立施設等を取り巻く環境について、地域創造が取り組むさまざまな活動を踏まえ紹介しました。

ミニコンサートでは、平成18年度より地域創造の登録アーティストとなったサクソフォン四重奏、カルテット・スピリタスが登場。松原孝政さん、波多江史朗さん、松井宏幸さん、東涼太さんによるサクソフォンカルテットは、全国の小学校などでのアウトリーチやコンサートを通じて音楽の魅力を発信し続けています。

コンサートには他のセミナー受講者も含め80人を超える方が参加。「音楽レストラン」と題し、身近な“カツ丼”をモチーフにして、「特定の音域がないと卵のないカツ丼みたい」と、他の人の音を尊重して演奏することの大切さなどをユーモアたっぷりに説明されました。普段間近で音楽を聴くことのない受講者の雰囲気は徐々にほぐれていき、最後には会場全体が大いに盛り上がって終了しました。受講生からは「このような事業を自分の自治体でも取り入れていきたい」などの声が挙がっていました。

ミニコンサートの様子

●平成29年度「ステージラボ　公立ホール・劇場 マネージャーコース」「文化政策幹部セミナー」参加申し込み方法
本誌同封の募集要領で概要詳細をご覧いただけます。また参加申し込みは当財団ウェブサイト内の「様式箱」→「ステージラボ」・「文化政策幹部セミナー」よりメールにてお申し込みください。
http://www.jafra.or.jp/j/guide/box/
[申し込み・問い合わせ]
芸術環境部　戸舘・江坂・梅田・宇野
Tel. 03-5573-4124

財団からのお知らせ

●「公立美術館活性化事業」に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

●各事業の詳細については、実施要綱をご確認ください。各実施要綱および申請書類は、当財団のウェブサイト
http://www.jafra.or.jp
→「様式箱」よりダウンロードできます。

◎[Ⅰ]「市町村立美術館活性化事業」参加申し込み方法

参加を希望する市町村立美術館が、直接地域創造に申し込みます(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、参加決定後に共同巡回展実行委員会を設立していただきます。また、事業の参加に当たっては、準備年度に開催される実行委員会・学芸担当者会議への出席にかかる経費等についての予算措置が必要です。

●平成30・31年度「公立美術館活性化事業」募集

公立美術館活性化事業における4事業5種類のプログラムについて、平成30・31年度に実施される事業の参加館を募集します。

募集締切:平成29年11月30日(木)

[Ⅰ]平成30年度準備・31年度開催「市町村立美術館活性化事業」

この事業は、地域創造が提示する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展を、市区町村の設置する美術館が共同で実施するものです。今回、平成31年度開催の共同巡回展として、「府中市美術館所蔵　ゆかいな創作版画展」(仮称)の参加館を募集します。

描いたイメージを自分で版に彫り、自分で紙に摺(す)った木版画作品が創作版画と呼ばれます。これは1904(明治37)年、雑誌『明星』に掲載された山本鼎《漁師》に始まったとされます。明治末から美術雑誌『白樺』などで西洋近代版画が凄まじい勢いで紹介されて、いよいよ版画熱が高まりました。絵師、彫師、摺師の分業による精緻な伝統的浮世絵系木版画も新版画と呼ばれ、創作版画はこれと競争しながら、さまざまな作品が多くの画家たちによってつくられてきました。

府中市美術館は、広範な創作版画運動のうち、特に“ゆかいな”創作版画作品に着目し、収集を行い、これまで4回にわたって展覧会を開催してきました。主な収蔵作家としては、川上澄生、恩地孝四郎、谷中安規、前川千帆、関野準一郎、浅野竹二などです。版画自体が複数枚作品であり、比較的安価な大衆的美術であることや、版画特有のイメージの簡素化とデフォルメの強調によってより親しみやすい作品である上に、学校美術での実技、木版画年賀状の普及などによって、創作版画は卑近とも言えるほど、最も身近な美術作品となっています。

ただし、優れた創作版画は決して趣味的ではなく、イメージを純化させ、文学的世界に共通し、詩画集の挿絵に本領の一端を覗かせ独特の表現世界を形成しています。多岐にわたる創作版画のうち、着想の豊かさ、柔らかさ、力強さに妙味を発揮する自由なイメージ世界である「ゆかいな創作版画」作品たちが含む「おかしみ」こそ、日本近代美術のひとつの大切な縦軸とも考えられます。この展覧会をきっかけに、地域の創作版画家の作品も追加することで、地元作家の顕彰の場としていただき、さらにその作品によって地域に憩いと笑いが生まれることが期待されます。

この事業では、参加館による実行委員会を結成し、平成31年度に巡回展を開催するほ

◎創作版画の「おかしみ」 府中市美術館 学芸係長 志賀秀孝

浅野竹二さんの全国の名所絵を含む創作版画を120点ほど所蔵しています。この素晴らしい作家は関西ではよく知られていても、関東では未紹介でいわば無名でした。まだまだ優れた作家が全国におられるのではないでしょうか。

美術作品に描くべきものとは、通常は「美しいもの」と言えますが、ところが下図の《食卓の猫》ではどうでしょう。人間の食卓上に四つ足で上がり、まんまと魚を一匹頂戴し、しめしめと振り返ると、なんとそこには現場の目撃者となった我々(鑑賞者)と目が合って気まずい、といった様子がよくわかります。私たちがこの猫に声をかけるとしたらどうでしょうか?「泥棒猫!」と怒るのか、「お前、今、ものすごくびっくりしているでしょう。右と左の目がずれちゃってるよ」と笑うのか。2つの人格のどちらを選ぶのか、人間に潜む二面性を作家は鋭く問いかけているような気もします。

このように、創作版画には、見るものが勝手なセリフを自由につけることができます。この自由気ままな感性遊びこそ、鑑賞の基本であるべきではないでしょうか。

浅野竹二《食卓の猫》 1978年　府中市美術館蔵

川上澄生《水兵》 1928年　府中市美術館蔵

前川千帆《花売り娘》
1951年　府中市美術館蔵

稲垣知雄《深夜》
1950年　府中市美術館蔵

か、準備年度事業として、平成30年度から学芸担当者会議等を行い、アドバイザーの助言のもと、企画の具体化や調査研究、制作実務を分担して進めます。

地域創造は、準備年度・開催年度の2か年にわたる助成に加え、アドバイザーの派遣や制作実務に対する助言等により、事業の実施をサポートします。

[Ⅱ-①] 平成30年度準備・31年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」
[Ⅱ-②] 平成30年度開催「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」

3館以上の公立美術館が共同で自主的に企画する、公立美術館の所蔵品を活用した共同巡回展に対し助成します。

「2か年プログラム」は、平成30年度に企画の具体化や調査研究、出品交渉やカタログ編集等の準備作業を行い、平成31年度に巡回展を開催する事業を対象とし、準備年度150万円、開催年度2,000万円を上限に助成します(なお、開催年度助成金については、決定額の50%までの前金払い請求が可能です)。

「単年度プログラム」は、平成30年度に開催される共同巡回展について、A.作品借用・展示関連経費への助成と、B.カタログ作成経費への助成のどちらかをご選択いただき、A.については500万円、B.については300万円を上限に助成します。

[Ⅲ] 平成30年度実施「公立美術館共同巡回展企画支援事業」

2館以上の公立美術館による、「公立美術館共同巡回展開催助成事業」の申請に向けた、企画内容の検討や調査研究等の取り組みを支援します。地域創造は学芸担当者会議の開催や調査活動のための経費に対し、100万円を上限に助成するほか、アドバイザーの派遣、会議室の提供、他の参加館募集の告知等による支援も行います。

[Ⅳ] 平成30年度実施「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」

2館以上の公立美術館が共同で企画する、公立美術館の所蔵品を活用した地域交流プログラムの実施に対し、100万円を上限に助成します。参加館や他の公立美術館のコレクションを活用した展覧会(異なる展覧会も可)に関連し、各館の展示内容やテーマ(作家、素材、技法、様式、モチーフなど)をもとに自主的に企画・実施される地域交流プログラムが対象です。

◎[Ⅱ-①]「公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)」申請方法

- 準備年度:各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。
- 開催年度:準備年度に助成決定を受けた共同巡回展実行委員会より申請します。

◎[Ⅱ-②]「公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(各美術館の設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、助成決定後に実行委員会を設立していただきます。

◎[Ⅲ]「公立美術館共同巡回展企画支援事業」および[Ⅳ]「公立美術館共同地域交流プログラム助成事業」申請方法

各参加館が申請します。申請書類一式を代表となる館が取りまとめ、直接地域創造へ提出してください(指定管理者制度を導入している施設の場合に限り、設置者である地方公共団体の長の副申が必要です)。なお、実行委員会の設立は必要ありません。

事業名		対象となる美術館(*1)	申請について	助成措置		
				助成率(*2)	上限額	助成期間
[Ⅰ]	市町村立美術館活性化事業	市区町村(政令指定都市を除く)の設置する美術館	参加を希望する各市町村立美術館より申請 ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:10/10 開催年度:2/3	準備年度:100万円 開催年度:1,200万円	2年間
[Ⅱ-①]	公立美術館共同巡回展開催助成事業(2か年プログラム)	都道府県、政令指定都市、市区町村の設置する美術館	3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる) ※開催年度は実行委員会より申請	準備年度:2/3 開催年度:2/3	準備年度:150万円 開催年度:2,000万円	
[Ⅱ-②]	公立美術館共同巡回展開催助成事業(単年度プログラム)		3館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	2/3	作品借用・展示関連:500万円 カタログ作成関連:300万円	1年間
[Ⅲ]	公立美術館共同巡回展企画支援事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	
[Ⅳ]	公立美術館共同地域交流プログラム助成事業		2館以上 申請事業に参加する各公立美術館が申請(代表館が取りまとめる)	10/10	100万円	

*1 公立美術館活性化事業における美術館とは、博物館その他を含め、美術作品の公開および保管を行う施設をいいます。
*2 [Ⅰ]の開催年度および[Ⅱ]については、対象経費の合計額から収入を控除した額の助成率です。その他については、対象経費の合計額に対する助成率となります。

*地域創造レターは再生紙を使用しています

愛知県豊橋市

まちじゅう図書館キックオフイベント in 雨の日商店街

上：水上ビル／下：ロケハンの様子

●豊橋市まちなか図書館計画概要

「豊橋駅前大通二丁目地区　第1種市街地再開発事業」（地区面積1ha）により、再開発ビル（東棟、西棟）と広場（仮称まちなか広場）を整備。東棟の2階の一部と3階に新図書館（施設規模4,000㎡以内）を開設し、館内を「発見する」「学ぶ」「集う」「交流する」「くつろぐ」の5機能で構成する。蔵書は約10万冊を予定。開館後の運営では、特定分野についての専門的な知識をもつ「ソムリエ」を配し、館内外で実施するイベントやセミナー、講座等の企画・実施などにあてる予定。また、実施する事業として、素案では「大人の部活動」「出張まちゼミ」「放課後クラブ活動コンテスト」「クリエイティブ系ワークショップ」「起業支援セミナー」などが挙げられている。

＊1　800メートルにわたって暗渠化した農業用水路上に蛇行した低層棟が並ぶ水上ビルは、昭和30年代末～40年代初頭に建設された豊橋市の名物ビル。ビルの両側が道路に挟まれていることから、建物の両側にアーケードがあるのが特徴。大きく3棟に分けられ、大豊商店街は2棟目で1階が店舗、上が住居という職住一体型。

＊2　水上ビルや穂の国とよはし芸術劇場PLATなどを会場に開催されている現代アートイベント。2004年、大型百貨店の撤退などで中心市街地が衰退するなか、地元有志や豊橋技術科学大学の学生などで第1回が行われ、今年で14回目となる。

＊3　フリーの映像ディレクターを経て、2008年、東京・荻窪にブックカフェ「6次元」を開業。まちづくりの一環として、空きスペースに図書館をつくるプロジェクトや、まちを小説化するワークショップ「ブックトープ」プロジェクトなどを各地で実施。

図書館をまちづくりに生かす――。そんな「まちなか図書館」「まちじゅう図書館」の取り組みが広がりを見せている。「世界を広げ、まちづくりに繋げる“知と交流の創造拠点”」をコンセプトに掲げ、3年後の開館を目指す豊橋市まちなか図書館（仮称）もそのひとつだ。プレイベントにも力を入れ、6月11日に「まちじゅう図書館キックオフイベント in 雨の日商店街」が開催された。その模様と「まちなか図書館」への期待を取材した。

イベントの会場となったのは、豊橋駅から徒歩5分、駅と直結する「穂の国とよはし芸術劇場PLAT」からも建物が見える通称「水上（すいじょう）ビル」の一画にあるレトロな大豊商店街だ[＊1]。

最盛期は60店舗が営業していたが、現在は老舗の花火屋やたばこ屋などが商売を続ける一方、半数近くが空き店舗になっている。その活性化を目的として2004年からアートイベント「sebone」[＊2]を実施。加えて14年から始めたのが「雨の日商店街」（大豊協同組合主催）だ。「閉めたままにしておくと人にも貸しづらくなるので、商店街のイベントがない梅雨時に空き店舗とアーケードを開放し、アンティークショップやコーヒーショップなどに出店してもらう2週にわたる週末だけの雨の日商店街を考えた」と大豊組合代表理事で建築家の黒野有一郎さんは話す。今回も約30軒が出店し、普段は人通りの少ない商店街に多くの市民が訪れていた。

図書館がこの商店街向いの再開発エリアに建設されることから、まちじゅう図書館プロジェクトも空き店舗に「まちなかライブラリー」を出店し、新図書館の情報を提供するとともに、商店主たちの選んだ本を展示。また、各地で本を媒介にした新たな「つなぎ場」づくりを実践しているナカムラクニオさん[＊3]とseboneの仕掛け人でもある黒野さん、PLAT芸術文化プロデューサーの矢作勝義さんによるトークライブ「『本のあるまち』のつくり方」を行った。

使われなくなった電話ボックスを図書館にするプロジェクト、米国発祥で世界に広がっている自宅前に設置するマイクロ・ライブラリー、古書店の町として再生したウェールズのヘイ・オン・ワイの取り組みなど、ナカムラさんが紹介する刺激的な事例に市民は熱心に耳を傾けていた。トークライブの後、小説執筆ワークショップも行われ、小学生からシニアまで15人の参加者が3時間で大豊商店街の歴史に触発された素敵なショートストーリーを書き上げていた。

ナカムラさんは、「今やデジタル本などもあって、本という概念が拡張している。同時に、本はただの紙の束ではないことに人々は薄々気づき始めた。人と人を繋ぐ力など、本がもつモノとしての力が再認識され、本や図書館がまちづくりで取り上げられることが多くなった。本を媒介に人と人が出会い、知識を提供しあうことが、これからの図書館には求められている」と指摘。また黒野さんは、「今やアートであれ音楽であれ、どんどんまちに出て、得意なパートで地域と関わろうとしている。豊橋のまちなか図書館も、本を介して人が集まれる場をつくろうとしていて、商店街の活性化に繋がるのではないか」と期待をにじませる。

豊橋市では、「文化のまち」づくり課を設置し、「文化がみえるまち」づくりを推進するとともに、中心市街地活性化計画により多世代交流施設「こども未来館」（2008年）、PLAT（2013年）を開設。また、「ええじゃないか豊橋音祭り」や大道芸による「豊橋アートフェスティバル」などのまちなか回遊イベントにも力を入れてきた。新図書館の整備を担当する都市計画部まちなか図書館整備推進室の伊藤紀治室長は、「図書館はただ本の貸し出しをするところではなく、これからは社会やまちと関わる起点になっていく。中央図書館とは別に中心市街地に開設するまちなか図書館の使命は、本を介して市民が集い、人やまち、社会と出会う市民の交流拠点、活動拠点になることだと思う。さまざまな分野の講座を開くなど、社会の課題の解決に繋がるような環境をつくり、図書館に人のネットワークをつくっていきたいと考えている」と話す。

“まちなか”をキーワードにこれまでの枠組みを越えて施設、イベント、人が繋がる新生豊橋市のシンボルとなる新図書館――3年後の開館が楽しみだ。（田中健夫）